

# 議会による事務事業評価

## 評価結果と政策提言

令和2年 12 月 18 日

登米市議会



# 議会による事務事業評価 評価結果と政策提言

## 《 目 次 》

〈事 業〉	〈評価結果頁〉	〈政策提言頁〉
コミュニティFMの活用	4	16
敬老行事補助金交付事業	6	16
老人クラブ補助金交付事業	8	17
登米市産食材利用促進販路拡大事業	10	18
ビジネスチャンス支援事業	12	19
木工芸担い手育成支援事業	14	19

## 1. 議会による事務事業評価結果

事業名	コミュニティFMの活用		[総務企画常任委員会]
委員会 評価	概ね適正である	理由	ラジオを通じて情報を伝え、より多くの情報の共有化を図り、災害時などにおける有効な情報手段として活用している。
今後の 方向性	改善	理由	登米市にとって唯一のラジオによる不特定多数への情報伝達手段であるが、単純に放送時間を成果指標とし評価することは困難である。情報伝達手段としての効果の検証が必要である。また、聴取率向上と経営安定のための工夫、市との防災等の協議機関が必要である。

# 登米市議会事務事業評価 委員会評価シート

<b>委員会名</b>	総務企画常任委員会	<b>評価対象事業</b>	コミュニティFMの活用
-------------	-----------	---------------	-------------

### ◆項目別評価結果…議員(委員)評価の積上げ

評価項目	評価基準	委員の評価数(人)
市民ニーズ	1 きわめてニーズが高い	1
	2 ニーズが高い	0
	3 どちらかといえばニーズが高い	5
	4 どちらかといえばニーズが低い	2
	5 ニーズが低い	0
	6 ニーズがない	0
市が行う必要性	1 きわめて必要性が高い	2
	2 必要性が高い	4
	3 どちらかといえば必要性が高い	2
	4 どちらかといえば必要性が低い	0
	5 必要性が低い	0
	6 必要性がない	0
費用に見合った効果	1 きわめて効果的である	1
	2 効果的である	2
	3 どちらかといえば効果的である	3
	4 どちらかといえば効果的でない	2
	5 効果が少ない	0
	6 効果がない	0
目標の達成状況	1 きわめて成果がある	1
	2 成果がある	1
	3 どちらかといえば成果がある	5
	4 どちらかといえば成果がない	0
	5 成果が少ない	1
	6 成果がない	0

委員間討議

### ◆委員会項目別評価

評価基準	評価点		評価コメント(100字以内)
1 きわめてニーズが高い	25点	15	市政情報や防災情報など市民の必要とすることを情報としてリアルタイムで流せるのはとても重要なアイテムである。ただし、情報取得手段として、どの程度番組を活用しているかが未知数である。
2 ニーズが高い	20点		
3 どちらかといえばニーズが高い	○ 15点		
4 どちらかといえばニーズが低い	10点		
5 ニーズが低い	5点		
6 ニーズがない	0点		
1 きわめて必要性が高い	25点	20	特に緊急時の手段としては大切なツールであり、広報紙や紙だけでは情報として遅すぎる。市が関わってこそ初めて防災や緊急時の対応として活用ができる。
2 必要性が高い	○ 20点		
3 どちらかといえば必要性が高い	15点		
4 どちらかといえば必要性が低い	10点		
5 必要性が低い	5点		
6 必要性がない	0点		
1 きわめて効果的である	25点	15	年間380万円ほどの費用であれば、費用対効果は十分ある。もう少し多くのリスナーに聞いてもらう政策を立てるべき。
2 効果的である	20点		
3 どちらかといえば効果的である	○ 15点		
4 どちらかといえば効果的でない	10点		
5 効果が少ない	5点		
6 効果がない	0点		
1 きわめて成果がある	25点	15	一定程度の目標は達成しているが、取り組みの工夫でより成果が出てくるのではないか。
2 成果がある	20点		
3 どちらかといえば成果がある	○ 15点		
4 どちらかといえば成果がない	10点		
5 成果が少ない	5点		
6 成果がない	0点		

委員会項目別評価点数

65

一総合評価で区分

※委員の評価数は、委員評価による数をそのまま転記したもの。

※委員会項目別評価点数は、レーダーチャートに表示し事業バランスを確認してください。

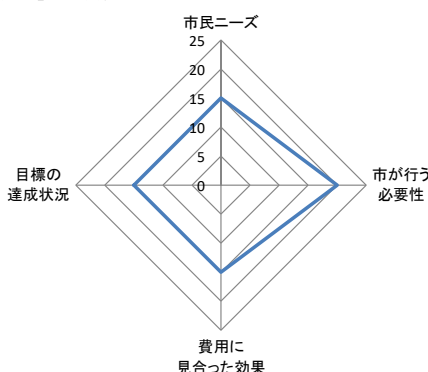
### ◆総合評価…議員(委員)評価の積上げ

評価	委員の評価数(人)
A きわめて良好であるもの	1
B 良好である	2
C 概ね適正である	4
D 問題がある	1
E かなり問題がある	0
F 不適正である	0

### ◆委員会評価

評価	評価点	委員会全体評価	評価コメント(100字以内)
A きわめて良好であるもの	91~100点	C	ラジオを通じて情報を伝え、より多くの情報の共有化を図り、災害時などにおける有効な情報手段として活用している。
B 良好である	71~90点		
C 概ね適正である	51~70点		
D 問題がある	26~50点		
E かなり問題がある	11~25点		
F 不適正である	0~10点		

### 【参考】委員会評価レーダーチャート



### ◆今後の方向性

方向性(該当欄に○)	理由(政策・施策の見地、予算に関する実情等も含む。)500字以内
拡充	登米市にとって唯一のラジオによる不特定多数への情報伝達手段であるが、単純に放送時間を成果指標とし評価することは困難である。情報伝達手段としての効果の検証が必要である。また、聴取率向上と経営安定のための工夫、市との防災等の協議機関が必要である。
継続	
○ 改善	
民間・市民協働	
縮小・廃止	
完了	

事業名	敬老行事補助金交付事業 <span style="float: right;">〔教育民生常任委員会〕</span>	
委員会 評価	良好である	<p>理由</p> <p>市内の敬老行事は、本事業を活用し、ほとんどの地区で開催されている。また、コロナ禍における行事の自粛等に対応した要綱改正が行われ、補助金の交付基準を緩和されたことは評価できる。</p> <p>しかし、補助対象となる行政区では、参加者の体調面の不安や、移動手段を確保できないなどにより、参加率は約50%と低迷していること、また、地区役員の高齢化により主催者側の負担が増加していることなどから、今後の敬老行事のあり方について検討が必要と考える。</p>
今後の 方向性	継続	<p>理由</p> <p>敬老行事は地域に密着した行事として、高齢者に対し感謝と敬意を表し、地域住民と共に長寿と健康を祝福することで、「高齢者を敬う」という観点から、行事が円滑に実施されるよう本事業の継続が必要と思われる。</p> <p>参加者からは、毎年開催を楽しみにしているとの声も多くあることから、今後も事業を維持継続させるため、参加率の増加と運営スタッフの負担を軽減するなど、運営方法に創意工夫を凝らし、充実した事業展開が望まれる。</p>

# 登米市議会事務事業評価 委員会評価シート

<b>委員会名</b>	教育民生常任委員会	<b>評価対象事業</b>	敬老行事補助金交付事業
-------------	-----------	---------------	-------------

### ◆項目別評価結果…議員(委員)評価の積上げ

評価項目	評価基準	委員の評価数(人)
市民ニーズ	1 きわめてニーズが高い	1
	2 ニーズが高い	5
	3 どちらかといえばニーズが高い	2
	4 どちらかといえばニーズが低い	0
	5 ニーズが低い	0
	6 ニーズがない	0
市が行う必要性	1 きわめて必要性が高い	2
	2 必要性が高い	5
	3 どちらかといえば必要性が高い	1
	4 どちらかといえば必要性が低い	0
	5 必要性が低い	0
	6 必要性がない	0
費用に見合った効果	1 きわめて効果的である	0
	2 効果的である	3
	3 どちらかといえば効果的である	3
	4 どちらかといえば効果的でない	1
	5 効果が少ない	1
	6 効果がない	0
目標の達成状況	1 きわめて成果がある	0
	2 成果がある	4
	3 どちらかといえば成果がある	3
	4 どちらかといえば成果がない	1
	5 成果が少ない	0
	6 成果がない	0

委員間討論

### ◆委員会項目別評価

評価項目	評価基準	評価点	評価コメント(100字以内)
市民ニーズ	1 きわめてニーズが高い	25点	20 参加者は毎年の開催を楽しみにしており、各自治会でも敬老の思いから相応の負担の中で開催している。 地域での必要性は高いと考えられるが、今後は若年層の参加などにより、より多くの高齢者を祝福できるように開催内容や方法等も模索していくべき。
	2 ニーズが高い	○ 20点	
	3 どちらかといえばニーズが高い	15点	
	4 どちらかといえばニーズが低い	10点	
	5 ニーズが低い	5点	
	6 ニーズがない	0点	
市が行う必要性	1 きわめて必要性が高い	25点	20 地域活動の核として重要であり、「高齢者の楽しみをなくすな」という発言を受けて感じるものがある。 交流を通して、心のケアを促すことが出来るなど、今後とも必要と考える。 この事業の主体となるのは地域住民であり、今後とも維持できるように行政のサポートが大切と考える。
	2 必要性が高い	○ 20点	
	3 どちらかといえば必要性が高い	15点	
	4 どちらかといえば必要性が低い	10点	
	5 必要性が低い	5点	
	6 必要性がない	0点	
費用に見合った効果	1 きわめて効果的である	25点	15 敬老行事参加者数が約50%で、効果が最大限出ているとは判断できない。また、自治会単位で開催の場合、補助金に加えて、持ち出しを加え開催しているのが現状である。 しかしながら、参加者は年に一度、地域の方々のアトラクションや食事を楽しみながらの懇親を楽しみにしているのも事実である。 よって、当委員会では、参加していただく敬老者の楽しみと各自治会の活性化に効果があると思われるが、参加率の向上が必要なこと。自治会負担のあり方等に關する検討の必要性、などを総合的に判断し、費用に見合った効果は、「どちらかといえば効果的である」とした。
	2 効果的である	20点	
	3 どちらかといえば効果的である	○ 15点	
	4 どちらかといえば効果的でない	10点	
	5 効果が少ない	5点	
	6 効果がない	0点	
目標の達成状況	1 きわめて成果がある	25点	20 現在の事業の目的からすると、ある程度達成しているものの、市全体の高齢者に満足感があるかが問われる。 参加した高齢者の方々は、毎年開催の「敬老行事」は楽しみの一つであり、継続した開催が望まれる。 また、開催にあたっては、主催者の意見聴取や地域コミュニティ単位での開催の検討など行い、一層有意義な行事となるため、更なる努力をされたい。
	2 成果がある	○ 20点	
	3 どちらかといえば成果がある	15点	
	4 どちらかといえば成果がない	10点	
	5 成果が少ない	5点	
	6 成果がない	0点	

 委員会項目別評価点数 **75** 一総合評価で区分

※委員の評価数は、委員評価による数をそのまま転記したもの。

※委員会項目別評価点数は、レーダーチャートに表示し事業バランスを確認してください。

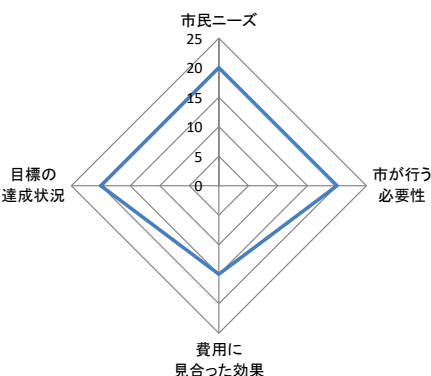
### ◆総合評価…議員(委員)評価の積上げ

評価	委員の評価数(人)
A きわめて良好であるもの	0
B 良好である	3
C 概ね適正である	4
D 問題がある	1
E かなり問題がある	0
F 不適正である	0

### ◆委員会評価

評価	評価点	委員会全体評価	評価コメント(100字以内)
A きわめて良好であるもの	91~100点	<b>B</b>	市内の敬老行事は、本事業を活用し、ほとんどの地区で開催されている。また、コロナ禍における行事の自粛等に対応した要綱改正が行われ、補助金の交付基準を緩和されたことは評価できる。 しかし、補助対象となる行政区では、参加者の体面への不安や、移動手段を確保できないなどにより、参加率は約50%と低迷していること、また、地区役員の高齢化により主催者側の負担が増加していることなどから、今後の敬老行事のあり方について検討が必要と考える。
B 良好である	71~90点		
C 概ね適正である	51~70点		
D 問題がある	26~50点		
E かなり問題がある	11~25点		
F 不適正である	0~10点		

### 【参考】委員会評価レーダーチャート



### ◆今後の方向性

方向性(該当欄に○)	理由(政策・施策的見地、予算に関する実情等も含む。)	500字以内
拡充		敬老行事は地域に密着した行事として、高齢者に対し感謝と敬意を表し、地域住民と共に長寿と健康を祝福することで、「高齢者を敬う」という観点から、行事が円滑に実施されるよう本事業の継続が必要と思われる。 参加者からは、毎年の開催を楽しみにしているとの声も多くあることから、今後も事業を維持継続させるため、参加率の増加と運営スタッフの負担を軽減するなど、運営方法に創意工夫を凝らし、充実した事業展開が望まれる。
継続	○	
改善		
民間・市民協働		
縮小・廃止		
完了		

事業名	老人クラブ補助金交付事業 <span style="float: right;">〔教育民生常任委員会〕</span>	
委員会 評価	良好である	<p>理由</p> <p>老人クラブは、高齢者の地域活動の核として、住みよい地域づくりを進める上で、組織が担う役割はとて重要となっている。本事業は団体からのニーズも高く、老人クラブ連合会及び多くの単位老人クラブで補助金を活用し、様々な活動が展開されている。</p> <p>一方で、会員の減少や役員のなり手不足、また、単位老人クラブの事務担当者の高齢化による事務手続きの負担増加など課題も多く、受け皿となるクラブの強化発展（事務局体制支援の強化など）が必要と思われる。</p>
今後の 方向性	継続	<p>理由</p> <p>登米市老人クラブ連合会の会員数は5,557人（令和2年4月1日現在）で、本市における老人クラブ加入対象年齢60歳以上の人口33,408人（令和2年3月31日現在）に対して加入率は16.6%と低い状況である。</p> <p>多様化した現代において、高齢者の中には、老人クラブだけが「生きがいつくり」ではないと考える様相がある。その加入者離れの背景には、身近なスポーツの普及や手軽な娯楽があげられる。</p> <p>本市の高齢化率は、令和2年3月31日現在で34.7%であり、全国平均の28.4%（令和元年10月1日現在）よりも6.3%上回っている。将来予想の推計値では、令和27年において44.8%（全国平均36.8%）となり、本市人口のおおむね半数が高齢者になることが見込まれている。</p> <p>本格化する超高齢社会において、老人クラブは地域の高齢者間の融和と協調を図る上で、かけがえのない「拠り所」として社会的な期待は大きく、活動を継続するためにも会員の加入促進を積極的に進める必要があると考える。</p> <p>よって、会の存続には補助金は大いに必要不可欠であり、交付申請に係る提出書類の簡素化など、行政で出来るサポートをさらに行う必要がある。</p> <p>若い世代もいずれ迎える高齢期。その生活を健康で実り豊かなものにするため、社会奉仕活動を含めた【自ら考え・自ら実践し・そして幸福感を得られる人生実現】を、市民と行政が積極的に支援することが必要だと考える。</p>



# 登米市議会事務事業評価 委員会評価シート

<b>委員会名</b>	教育民生常任委員会	<b>評価対象事業</b>	老人クラブ補助金交付事業
-------------	-----------	---------------	--------------

## ◆項目別評価結果…議員(委員)評価の積上げ

評価項目	評価基準	委員の評価数(人)
市民ニーズ	1 きわめてニーズが高い	2
	2 ニーズが高い	3
	3 どちらかといえばニーズが高い	3
	4 どちらかといえばニーズが低い	0
	5 ニーズが低い	0
	6 ニーズがない	0
市が行う必要性	1 きわめて必要性が高い	4
	2 必要性が高い	2
	3 どちらかといえば必要性が高い	2
	4 どちらかといえば必要性が低い	0
	5 必要性が低い	0
	6 必要性がない	0
費用に見合った効果	1 きわめて効果的である	2
	2 効果的である	3
	3 どちらかといえば効果的である	1
	4 どちらかといえば効果的でない	1
	5 効果が少ない	1
	6 効果がない	0
目標の達成状況	1 きわめて成果がある	3
	2 成果がある	1
	3 どちらかといえば成果がある	3
	4 どちらかといえば成果がない	1
	5 成果が少ない	0
	6 成果がない	0

委員間討議

## ◆委員会項目別評価

評価項目	評価基準	評価点	評価コメント(100字以内)
市民ニーズ	1 きわめてニーズが高い	25点	20
	2 ニーズが高い	20点	
	3 どちらかといえばニーズが高い	15点	
	4 どちらかといえばニーズが低い	10点	
	5 ニーズが低い	5点	
	6 ニーズがない	0点	
市が行う必要性	1 きわめて必要性が高い	25点	25
	2 必要性が高い	20点	
	3 どちらかといえば必要性が高い	15点	
	4 どちらかといえば必要性が低い	10点	
	5 必要性が低い	5点	
	6 必要性がない	0点	
費用に見合った効果	1 きわめて効果的である	25点	20
	2 効果的である	20点	
	3 どちらかといえば効果的である	15点	
	4 どちらかといえば効果的でない	10点	
	5 効果が少ない	5点	
	6 効果がない	0点	
目標の達成状況	1 きわめて成果がある	25点	20
	2 成果がある	20点	
	3 どちらかといえば成果がある	15点	
	4 どちらかといえば成果がない	10点	
	5 成果が少ない	5点	
	6 成果がない	0点	

委員会項目別評価点数 **85** 一総合評価で区分

※委員の評価数は、委員評価による数をそのまま転記したもの。

※委員会項目別評価点数は、レーダーチャートに表示し事業バランスを確認してください。

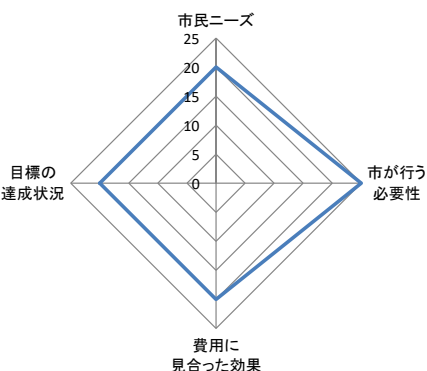
## ◆総合評価…議員(委員)評価の積上げ

評価	委員の評価数(人)
A きわめて良好であるもの	3
B 良好である	0
C 概ね適正である	2
D 問題がある	3
E かなり問題がある	0
F 不適正である	0

## ◆委員会評価

評価	評価点	委員会全体評価	評価コメント(100字以内)
A きわめて良好であるもの	91~100点	<b>B</b>	老人クラブは、高齢者の地域活動の核として、住みよい地域づくりを進める上で、組織が担う役割はとても重要となっている。本事業は団体からのニーズも高く、老人クラブ連合会及び多くの単位老人クラブで補助金を活用し、様々な活動が展開されている。一方で、委員の減少や役員のみ手不足、また、単位老人クラブの事務担当者の高齢化による事務手続きの負担増加など課題も多く、受け皿となるクラブの強化発展(事務局体制支援の強化など)が必要と思われる。
B 良好である	71~90点		
C 概ね適正である	51~70点		
D 問題がある	26~50点		
E かなり問題がある	11~25点		
F 不適正である	0~10点		

### 【参考】委員会評価レーダーチャート



## ◆今後の方向性

方向性(該当欄に○)	理由(政策・施策的見地、予算に関する実情等も含む。)500字以内	
拡充	<p>登米市老人クラブ連合会の会員数は5,577人(令和2年4月1日現在)で、本市における老人クラブ加入対象年齢60歳以上の人口33,408人(令和2年3月31日現在)に対して加入率は16.6%と低い状況である。</p> <p>多様化した現代において、高齢者の中には、老人クラブだけが「生きがいづくり」ではないと考える様相がある。その加入者離れの背景には、身近なスポーツの普及や手軽な娯楽があげられる。</p> <p>本市の高齢化率は、令和2年3月31日現在で34.7%であり、全国平均の28.4%(令和元年10月1日現在)よりも6.3%上回っている。将来予想の推計値では、令和27年において44.8%(全国平均36.9%)となり、本市人口のおおむね半数が高齢者になることが見込まれている。</p> <p>本格化する超高齢社会において、老人クラブは地域の高齢者間の融和と協力を図る上で、かけがえのない「拠り所」として社会的な期待は大きく、活動を継続するためにも委員の加入促進を積極的に進める必要があると考える。</p> <p>よって、会の存続には補助金は大いに必要不可欠であり、交付申請に係る提出書類の簡素化など、行政で出来るサポートをさらに行う必要がある。若い世代もいずれ迎える高齢期。その生活を健康で乗りこなすものにするため、社会奉仕活動を含めた【自ら考え・自ら実践し・そして幸福を得られる人生実現】を、市民と行政が積極的に支援することが必要だと考える。</p>	
継続		○
改善		
民間・市民協働		
縮小・廃止		
完了		

事業名	登米市産食材利用促進販路拡大事業 <span style="float: right;">〔産業建設常任委員会〕</span>		
委員会 評価	問題がある	理由	<p>これまでの取り組みの積み重ねで、近年の登米市産食材の利用は伸びている。しかし、販路拡大の取り組みは、売り上げに直結する事業者にとってメリットがあるが、多くの市民や生産者は関心が低い。提案食材も固定化の傾向がある。市事業として公平性が保たれているとは言い難い。</p>
今後の 方向性	改善	理由	<p>首都圏で登米市フェアを開催して頂けることは有難い事であり、郷土とのつながり・食材を通じたつながりをこれからも大事にしていくことが必要。首都圏へ販路を広げるのも必要であるが、地域内での身近な取り扱いも検討すべきである。</p>

# 登米市議会事務事業評価 委員会評価シート

<b>委員会名</b>	産業建設常任委員会	<b>評価対象事業</b>	登米市産食材利用促進販路拡大大事業
-------------	-----------	---------------	-------------------

### ◆項目別評価結果…議員(委員)評価の積上げ

評価項目	評価基準	委員の評価数(人)
市民ニーズ	1 きわめてニーズが高い	
	2 ニーズが高い	
	3 どちらかといえばニーズが高い	1
	4 どちらかといえばニーズが低い	6
	5 ニーズが低い	
	6 ニーズがない	
市が行う必要性	1 きわめて必要性が高い	
	2 必要性が高い	2
	3 どちらかといえば必要性が高い	2
	4 どちらかといえば必要性が低い	3
	5 必要性が低い	
	6 必要性がない	
費用に見合った効果	1 きわめて効果的である	
	2 効果的である	
	3 どちらかといえば効果的である	2
	4 どちらかといえば効果的でない	5
	5 効果が少ない	
	6 効果がない	
目標の達成状況	1 きわめて成果がある	
	2 成果がある	1
	3 どちらかといえば成果がある	3
	4 どちらかといえば成果がない	3
	5 成果が少ない	
	6 成果がない	

委員間討議

### ◆委員会項目別評価

評価基準	評価点	評価コメント(100字以内)
1 きわめてニーズが高い	25点	登米市産食材の販路拡大は、市民にとってはニーズが低く、興味関心が低い。一部の市民(生産者)にしか恩恵がない。
2 ニーズが高い	20点	
3 どちらかといえばニーズが高い	15点	
4 どちらかといえばニーズが低い	○ 10点	
5 ニーズが低い	5点	
6 ニーズがない	0点	
1 きわめて必要性が高い	25点	生産者が苦手な販売部門を市が支援し、売り上げを継続的に増やし税収を上げることが大事。今支援対象となっている生産者は、単独でも販路拡大ができる体制があるのではないか。
2 必要性が高い	20点	
3 どちらかといえば必要性が高い	○ 15点	
4 どちらかといえば必要性が低い	10点	
5 必要性が低い	5点	
6 必要性がない	0点	
1 きわめて効果的である	25点	食材や生産者のマンネリ化が否めない。1100万円を投じての事業に広がりが無い。
2 効果的である	20点	
3 どちらかといえば効果的である	15点	
4 どちらかといえば効果的でない	○ 10点	
5 効果が少ない	5点	
6 効果がない	0点	
1 きわめて成果がある	25点	達成すべき目標「消費地の食品関連業者へ食材の営業を行い、新たな販路を開拓する。目標110,000千円」登米市産食材利用額は、近年増加傾向にあり1億円を超えている。
2 成果がある	20点	
3 どちらかといえば成果がある	○ 15点	
4 どちらかといえば成果がない	10点	
5 成果が少ない	5点	
6 成果がない	0点	
<b>委員会項目別評価点数</b>		<b>50</b>

※委員の評価数は、委員評価による数をそのまま転記したものです。

※委員会項目別評価点数は、レーダーチャートに表示し事業バランスを確認してください。

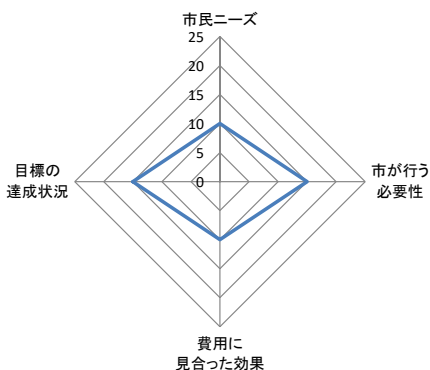
### ◆総合評価…議員(委員)評価の積上げ

評価	委員の評価数(人)
A きわめて良好であるもの	
B 良好である	
C 概ね適正である	3
D 問題がある	4
E かなり問題がある	
F 不適正である	

### ◆委員会評価

評価	評価点	委員会全体評価	評価コメント(100字以内)
A きわめて良好であるもの	91~100点	<b>D</b>	これまでの取り組みの積み重ねで、近年の登米市産食材の利用は伸びている。しかし、販路拡大の取り組みは、売り上げに直結する事業者にとってメリットがあるが、多くの市民や生産者は関心が低い。提案食材も固定化の傾向がある。市事業として公平性が保たれているとは言い難い。
B 良好である	71~90点		
C 概ね適正である	51~70点		
D 問題がある	26~50点		
E かなり問題がある	11~25点		
F 不適正である	0~10点		

### 【参考】委員会評価レーダーチャート



### ◆今後の方向性

方向性(該当欄に○)	理由(政策・施策の見地、予算に関する実情等も含む。)500字以内
拡充	首都圏で登米市フェアを開催して頂けることは有難い事であり、郷土とのつながり・食材を通じたつながりをこれからも大事にしていくことが必要。首都圏へ販路を広げるのも必要であるが、地域内での身近な取り扱いも検討すべきである。
継続	
改善	
民間・市民協働	
縮小・廃止	
完了	

事業名	ビジネスチャンス支援事業 <span style="float: right;">〔産業建設常任委員会〕</span>		
委員会 評価	概ね適正である	理由	<p>ビジネスチャンス支援事業は、登米市で起業したい人や事業拡大したい事業者の背中を押す大きな力となっている。様々な業種・多種多様な取り組みが対象となるため、チャンスが多い反面、支援基準が不明確になっている感がある。</p>
今後の 方向性	改善	理由	<p>起業や事業拡大を後押しする事業で支援を受けた事業者から感謝され、市の支援が活きていると感じた。市の関わりとして、補助金を出して終わりではない。2年目3年目の支援に対する要望もあるので、ビジネスサポートセンターを中心に、経営や事業継続に関する支援の検討と体制整備を行うべきである。また、この事業での起業や事業拡大の取り組みが分かるように、市民に向け情報発信してはどうか。起業・業務拡大したい人と行政だけが地域経済を活性化するのではなく、地域や市民と一緒にあって、ビジネスの新しい芽を見守り育てる視点も必要ではないか。</p>

# 登米市議会事務事業評価 委員会評価シート

委員会名	産業建設常任委員会	評価対象事業	ビジネスチャンス支援事業
------	-----------	--------	--------------

### ◆項目別評価結果…議員(委員)評価の積上げ

評価項目	評価基準	委員の評価数(人)
市民ニーズ	1 きわめてニーズが高い	
	2 ニーズが高い	2
	3 どちらかといえばニーズが高い	5
	4 どちらかといえばニーズが低い	
	5 ニーズが低い	
	6 ニーズがない	
市が行う必要性	1 きわめて必要性が高い	
	2 必要性が高い	1
	3 どちらかといえば必要性が高い	5
	4 どちらかといえば必要性が低い	1
	5 必要性が低い	
	6 必要性がない	
費用に見合った効果	1 きわめて効果的である	
	2 効果的である	1
	3 どちらかといえば効果的である	4
	4 どちらかといえば効果的でない	2
	5 効果が少ない	
	6 効果がない	
目標の達成状況	1 きわめて成果がある	
	2 成果がある	
	3 どちらかといえば成果がある	5
	4 どちらかといえば成果がない	1
	5 成果が少ない	1
	6 成果がない	

委員間対議

### ◆委員会項目別評価

評価基準		評価点	評価コメント(100字以内)	
1	きわめてニーズが高い	25点	15	地域経済の活性化のために、市民のニーズは有る。市内で起業や業務拡大を考える多くの企業が活用できる。
2	ニーズが高い	20点		
3	どちらかといえばニーズが高い	○ 15点		
4	どちらかといえばニーズが低い	10点		
5	ニーズが低い	5点		
6	ニーズがない	0点		
1	きわめて必要性が高い	25点	15	毎戸にチラシ配布や市ホームページで広く周知を行っている。
2	必要性が高い	20点		
3	どちらかといえば必要性が高い	○ 15点		
4	どちらかといえば必要性が低い	10点		
5	必要性が低い	5点		
6	必要性がない	0点		
1	きわめて効果的である	25点	15	この補助金を使っただけの事業により、売り上げアップがベストであるが、上がっていないのが現実。商品開発の成果が見えない。
2	効果的である	20点		
3	どちらかといえば効果的である	○ 15点		
4	どちらかといえば効果的でない	10点		
5	効果が少ない	5点		
6	効果がない	0点		
1	きわめて成果がある	25点	15	達成すべき目標「事業実施3年目、5%以上売り上げ向上。」3年後の売り上げアップ。わかりにくい。
2	成果がある	20点		
3	どちらかといえば成果がある	○ 15点		
4	どちらかといえば成果がない	10点		
5	成果が少ない	5点		
6	成果がない	0点		

委員会項目別評価点数 **60** →総合評価で区分

※委員の評価数は、委員評価による数をそのまま転記したもの。

※委員会項目別評価点数は、レーダーチャートに表示し事業バランスを確認してください。

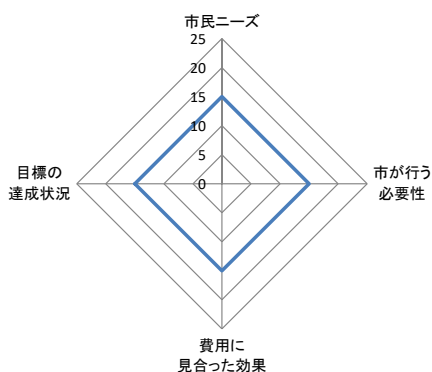
### ◆総合評価…議員(委員)評価の積上げ

評価	委員の評価数(人)
A きわめて良好であるもの	
B 良好である	1
C 概ね適正である	3
D 問題がある	2
E かなり問題がある	1
F 不適正である	

### ◆委員会評価

評価	評価点	委員会全体評価	評価コメント(100字以内)
A きわめて良好であるもの	91~100点	<b>C</b>	ビジネスチャンス支援事業は、登米市で起業したい人や事業拡大したい事業者の背中を押す大きな力となっている。様々な業種・多種多様な取り組みが対象となるため、チャンスが多い反面、支援基準が不明確になっている感がある。
B 良好である	71~90点		
C 概ね適正である	51~70点		
D 問題がある	26~50点		
E かなり問題がある	11~25点		
F 不適正である	0~10点		

### 【参考】委員会評価レーダーチャート



### ◆今後の方向性

方向性(該当欄に○)	理由(政策・施策的見地、予算に関する実情等も含む。)500字以内
拡充	起業や事業拡大を後押しする事業で支援を受けた事業者から感謝され、市の支援が活きていると感じた。市の関わりとして、補助金を出して終わりではない。2年目3年目の支援に対する要望もあるので、ビジネスサポートセンターを中心に、経営や事業継続に関する支援の検討と体制整備を行うべきである。また、この事業での起業や事業拡大の取り組みが分かるように、市民に向け情報発信はどうか。起業・業務拡大したい人と行政だけが地域経済を活性化するのではなく、地域や市民と一緒に、ビジネスの新しい芽を見守り育てる視点も必要ではないか。
継続	
改善	
民間・市民協働	
縮小・廃止	
完了	

事業名	木工芸担い手育成支援事業		[産業建設常任委員会]
委員会 評価	概ね適正である	理由	<p>林業のPRにもつながると思われる。これまでの地域おこし協力隊員の定着は、地域や活動内容によりバラつきがある。市内には様々なスキルを持った協力隊がおり、協力隊相互及び行政との連携により、更なる活動の充実が図られる。市内に地域おこし協力隊が増えることを期待する。</p>
今後の 方向性	継続	理由	<p>『木工芸職人の後継者不足』という地域課題に、地域おこし協力隊制度を活用し地域をあげて解決に向け取り組んでいる。長年培って来た矢羽の技の伝承を途絶えさせないよう、地域外から工芸に関心のある地域おこし協力隊が市内（津山）で活動していることは、大変心強い。伝承したい分野に、地域おこし協力隊の力を借りることは有効である。地域おこし協力隊の任期3年間の中で、技術習得→製品企画→販売流通→独立までのプロセスをきちんと踏めるよう、段階に応じた支援が必要がある。行政と受け入れ団体とが、林業や矢羽の技術継承について共通イメージを持って木工芸職人の人材育成に取り組むことが望ましい。</p>

# 登米市議会事務事業評価 委員会評価シート

委員会名	産業建設常任委員会	評価対象事業	木工芸担い手育成支援事業
------	-----------	--------	--------------

## ◆項目別評価結果…議員(委員)評価の積上げ

評価項目	評価基準	委員の評価数(人)
市民ニーズ	1 きわめてニーズが高い	
	2 ニーズが高い	3
	3 どちらかといえばニーズが高い	2
	4 どちらかといえばニーズが低い	2
	5 ニーズが低い	
	6 ニーズがない	
市が行う必要性	1 きわめて必要性が高い	
	2 必要性が高い	4
	3 どちらかといえば必要性が高い	3
	4 どちらかといえば必要性が低い	
	5 必要性が低い	
	6 必要性がない	
費用に見合った効果	1 きわめて効果的である	
	2 効果的である	2
	3 どちらかといえば効果的である	5
	4 どちらかといえば効果的でない	
	5 効果が少ない	
	6 効果がない	
目標の達成状況	1 きわめて成果がある	
	2 成果がある	3
	3 どちらかといえば成果がある	4
	4 どちらかといえば成果がない	
	5 成果が少ない	
	6 成果がない	

委員間討論

## ◆委員会項目別評価

評価基準	評価点	評価コメント(100字以内)
1 きわめてニーズが高い	25点	担い手不足を補完するのに効果が期待できる。
2 ニーズが高い	20点	
3 どちらかといえばニーズが高い ○	15点	
4 どちらかといえばニーズが低い	10点	
5 ニーズが低い	5点	
6 ニーズがない	0点	
1 きわめて必要性が高い	25点	国の交付税対象であり、財政支援がある。市の考え、方向性をしっかり持って、地域おこし協力隊員を呼び込むことは有効である。
2 必要性が高い ○	20点	
3 どちらかといえば必要性が高い	15点	
4 どちらかといえば必要性が低い	10点	
5 必要性が低い	5点	
6 必要性がない	0点	
1 きわめて効果的である	25点	受入団体や地域が、地域おこし協力隊(木工芸支援員)の活動をバックアップしている。2人とも任期間終了後は、定住を希望している。
2 効果的である	20点	
3 どちらかといえば効果的である ○	15点	
4 どちらかといえば効果的でない	10点	
5 効果が少ない	5点	
6 効果がない	0点	
1 きわめて成果がある	25点	市内の一部地域での活動であるため、活動の様子が見え辛い。地域おこし協力隊員〇日が実際に市内で地域おこしに携わっている実例もある。〇日や他の協力隊との交流で、活動の幅が広がり、協力隊が増えることを期待する。
2 成果がある	20点	
3 どちらかといえば成果がある ○	15点	
4 どちらかといえば成果がない	10点	
5 成果が少ない	5点	
6 成果がない	0点	
<b>委員会項目別評価点数</b>		<b>65</b>

※委員の評価数は、委員評価による数をそのまま転記したものの。

→総合評価で区分

※委員会項目別評価点数は、レーダーチャートに表示し事業バランスを確認してください。

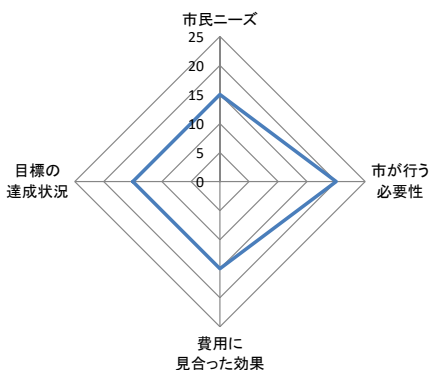
## ◆総合評価…議員(委員)評価の積上げ

評価	委員の評価数(人)
A きわめて良好であるもの	
B 良好である	
C 概ね適正である	7
D 問題がある	
E かなり問題がある	
F 不適正である	

## ◆委員会評価

評価	評価点	委員会全体評価	評価コメント(100字以内)
A きわめて良好であるもの	91~100点	<b>C</b>	林業のPRにもつながると思われる。これまでの地域おこし協力隊員の定着は、地域や活動内容によりバラつきがある。市内には様々なスキルを持った協力隊があり、協力隊相互及び行政との連携により、更なる活動の充実が図られる。市内に地域おこし協力隊が増えることを期待する。
B 良好である	71~90点		
C 概ね適正である	51~70点		
D 問題がある	26~50点		
E かなり問題がある	11~25点		
F 不適正である	0~10点		

### 【参考】委員会評価レーダーチャート



## ◆今後の方向性

方向性(該当欄に○)	理由(政策・施策の見地、予算に関する実情等も含む。)500字以内
拡充	『木工芸職人の後継者不足』という地域課題に、地域おこし協力隊制度を活用し地域をあげて解決に向け取り組んでいる。長年培って来た矢羽の技の伝承を途絶えさせないよう、地域外から工芸に関心のある地域おこし協力隊が市内(津山)で活動していることは、大変心強い。伝承したい分野に、地域おこし協力隊の力を借りることは有効である。地域おこし協力隊の任期3年間のうち、技術習得→製品企画→販売流通→独立までのプロセスをきちんと踏めるよう、段階に応じた支援が必要がある。行政と受け入れ団体とが、林業や矢羽の技術継承について共通イメージを持って木工芸職人の人材育成に取り組むことが望ましい。
継続 ○	
改善	
民間・市民協働	
縮小・廃止	
完了	

## 2. 事務事業評価に基づく政策提言

事業名	コミュニティFMの活用 〔総務企画常任委員会〕
事務事業に対する提言	<p><b>■協議機関の設置</b></p> <p>来年4月から、防災無線がFM放送の電波に乗せて市民に届けられることになるが、放送法においては放送事業者の承認を得て、市が緊急情報を提供できることになった。事業者は東日本大震災時に、市民に対し重要な情報提供に活躍してくれたFM放送である。現在、迫地域には一定程度浸透されているものの、市内全域への普及には至っていないという課題もある。</p> <p>ハード面においては、市で十分な設備の整備を進め、市内一円に届けられる環境整備が整えられつつあるが、ソフト面において、市民に親しまれ日常生活において「FMラジオを聴く」という登米市スタイルの確立を急がなければならない。</p> <p>緊急・一般行政情報をより多くの市民に届ける最大の方策は、その媒体となるはっとFMのラジオ放送が、より多くの市民に親しく愛されるメディアとなることである。</p> <p>よって、安定的な情報提供維持と事業者の事業発展は、一体の関係にあることから、今後は、事業者と市の両者が双方の課題を常に出し合い、互いに成長するための協議機関を早期に設置することを提言する。</p>

事業名	敬老行事補助金交付事業 〔教育民生常任委員会〕
事務事業に対する提言	<p><b>■事業の維持継続</b></p> <p>市財政健全化中期行動計画において補助金見直しの対象となっており、令和5年度までに補助金を2割削減する予定とされている。</p> <p>敬老行事は、市内ほとんどの行政区等で実施されており、経費は地域の自主財源から一部充当され、市補助金は貴重な財源となっている。</p> <p>今後も各行政区等において敬老行事が円滑に実施されるよう補助事業を維持継続するべきである。</p>



事業名	老人クラブ補助金交付事業 〔教育民生常任委員会〕
事務事業に対する提言	<p><b>■事業の維持継続</b></p> <p>市財政健全化中期行動計画において補助金見直しの対象となっており、令和5年度までに補助金を2割削減する予定とされている。</p> <p>老人クラブは上部組織の連合会組織、町域ごとの支部組織、さらには各町域の地区ごとの単位組織それぞれで活発な活動が展開され、市補助金は貴重な財源となっている。</p> <p>今後も高齢者の社会参加と福祉増進につながるよう補助事業を維持継続するべきである。</p> <p><b>■団体の育成・支援体制の拡充</b></p> <p>老人クラブは「老人福祉法」において、老人福祉を増進するための事業を行う者として位置付けられており、同法第13条で、地方公共団体は高齢者の生きがいや健康づくりの事業実施及び援助に努めなければならないと定められている。</p> <p>また、老人クラブ活動は、生涯学習による学習機会と共通する分野が多いことから、「高齢者福祉」と「社会教育」の両面から幅広く支援する必要がある。</p> <p>事業主体との意見交換会を通じ、健全な活動と団体の運営には財政的支援のほか、事務的支援の必要性を感じたことから、事務局を担う社会福祉協議会と行政が連携を強化するとともに、公民館などの社会教育施設でもサポートが受けられるよう、団体の育成・支援体制の拡充を図るべきである。</p>

事業名	登米市産食材利用促進販路拡大事業 〔産業建設常任委員会〕
事務事業に対する提言	<p><b>■登米ブランド推進と地産地消との一体的な取り組み</b></p> <p>登米耕土で育まれた農畜産物、加工品を、県内外の飲食店にPRし、首都圏での消費拡大を目指す取り組みは、まさに登米のブランドマーケティングである。登米市で生産される安心・安全な農産物を首都圏の人々に知ってもらう。実際に手に取り口にしてもらい品質を確かめてもらう。食材を通じ登米市に思い入れを持ってもらう。この取り組みを、コロナ禍でもPR活動の手法を工夫しながら、継続して行われることが重要である。</p> <p>首都圏に向けPRしている農畜産物を、地元市民も気軽に手に取れるよう、登米ブランド推進事業と一体的な事業展開を検討すること。</p> <p>また、安心・安全な農産物は、地元での販路拡大も欠かせないことから、市内の道の駅、農畜産物直売所や飲食店と連携し、地産地消の取り組みも強化すること。</p> <p><b>■ふるさと納税返礼品の検討</b></p> <p>環境循環型農業で作られた登米市の農畜産物の品質は、高級銘柄の農畜産物に劣らない。生産者により手塩にかけ育まれた農畜産物や、登米ブランドや登米地域認証品で付加価値を付けたものを、ふるさと納税返礼品として積極的に取り入れ、全国の登米市の応援団に味わってもらう仕組みを検討すること。</p> <p><b>■登米ブランドマスターの育成</b></p> <p>首都圏のホテルやレストランで登米市の食材を使用していることは、登米市の営業マンとして足繁く職員がお店に訪問するなど、これまでの一つ一つの努力の積み重ねの成果である。これまで築かれて来た信頼関係は市の大切な財産である。</p> <p>そのつながりを基に、登米耕土の環境循環農場で生産されている農産物の生産や加工の状況を把握し、販売や消費拡大にコーディネートできる職員が求められる。人脈やこれまでの信頼と言う財産を大事にする職員体制も必要ではないか。通常の人事異動のサイクルにとらわれない、専門分野の職員を育成すること。</p>

事業名	ビジネスチャンス支援事業 〔産業建設常任委員会〕
事務事業に対する提言	<p><b>■支援の細分化と見える化</b></p> <p>登米市民と移住者のように、農地等の基盤があつての始動とゼロからのスタートとでは、起業・創業準備が大きく異なる。起業・創業する背景や環境に応じた支援メニューの細分化を行なうこと。</p> <p>また、市民、移住・定住や起業・創業を検討している人に向け、市の支援メニューと支援の成果が分かるよう、情報発信を積極的に行うこと。</p> <p><b>■伴走型支援の検討</b></p> <p>起業後売上アップの目標を達成するためには、支援者である市の伴走も必要である。起業・創業の大きな決断を長期的に支えられるよう、ビジネスサポートセンター等が相談に応じること。</p> <p>事業者間同士の情報交換の場や、市内金融機関、企業や農業法人等異業種交流の仕組みづくりを行うこと。</p>

事業名	木工芸担い手育成支援事業 〔産業建設常任委員会〕
事務事業に対する提言	<p><b>■技術伝承プロセスの明確化</b></p> <p>地域おこし協力隊としての任期3年間のうちに、積極的な技術指導を行い、自由な創作活動を行う時間を確保しながら、木工職人としての独り立ちの道筋を描けるようにしなければならない。行政と受け入れ団体が、3年間の技術習得プランを示し、それに基づき人材育成に取り組むこと。また、矢羽の技術を映像化するなど、技術の伝達の多層化を図ること。</p> <p><b>■製作環境の継承</b></p> <p>現在、地域おこし協力隊は津山木工芸組合での技術研修、製品製造を行っている。木工芸職人として独り立ちするのに必要な技術習得、製品企画など必要な技術の習得も必要である。併せて、独自の作品を製造する工具も必要となる。木工芸の工具は高価であり買い揃えるには負担が大きい。</p> <p>地域内で高齢や後継者がいない等で使われなくなった木工機械や工房を募り、地域おこし協力隊はじめ木工芸に興味のある人に紹介し譲り受けるシステム（例）「クラフト・バンク」を構築してはどうか。</p> <p><b>■ものづくりを通じた交流</b></p> <p>地域おこし協力隊のスキルを活かしながら、市民に矢羽を親しみ木工芸の楽しみを感じてもらうため、市内の公民館等や道の駅、学校等と関わりを持つ機会を積極的に設けること。</p>